

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年2月13日

【評価実施概要】

事業所番号	0990900011		
法人名	株式会社ファミリーホームなか		
事業所名	グループホームきぬの里		
所在地	栃木県真岡市中313-3 (電話) 0285-83-5355		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成20年1月17日	評価確定日	平成20年2月13日

【情報提供票より】(平成20年1月4日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成19年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	8人, 非常勤 人, 常勤換算 8人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り 1階建ての1階部分
------	---------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000円~25,000円	その他の経費(月額)	<ul style="list-style-type: none"> ・理美容代-実費 ・おむつ代-実費 ・光熱水費-20,000円 ・清掃業務委託費-3,000円 ・日用品費-150円
敷金	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(100,000円)	有りの場合償却の有無	無
食材料費	朝食 300円	昼食	450円
	夕食 450円	おやつ	200円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成20年1月4日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	4名	要介護2	2名		
要介護3	2名	要介護4	1名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 83.3歳	最低	80歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人福田記念病院、報徳歯科診療所
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、真岡市で初めて開設された「株式会社ファミリーホームなか」が運営するグループホームである。建物構造は木造平屋、周囲は工業団地に通じる幹線道路があるが、敷地が広く、周囲を林と田畑に囲まれた癒される環境である。職員の入居者との接し方などが穏やかであり、職員の目配りもよく、入居者と職員と一緒に食事の用意をするなど、家庭的な雰囲気が感じられた。また、入浴等、入居者一人ひとりに対応した支援が随所で見られ、職員間でのケアの方針等の共有も図られている。より高い質を目指して取り組んでいるグループホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>今回が初めての自己評価・外部評価の実施である。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>① 今回の自己評価は管理者が職員に配布し、職員が自己評価に取り組み、話し合いを行い、管理者が最終的に集約した。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、構成は地域包括支援センター職員、民生委員、自治会、老人会、入居者並びに家族となっている。会議の内容は充実しており、ホーム内外における諸課題等について意見交換が行われ、課題解決を図るための討議がなされている。市とは開設以来連携が図られている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>③ 家族の訪問時には声かけをし、入居者の情報を伝えたり要望を伺っている。ホーム便りは発行していない。苦情解決体制は整っており、苦情受付責任者及び市、国保連等の連絡先が明記されている。意見箱も設置しているが、現在までに意見や苦情は寄せられていない。現在、家族会の組織化を検討中である。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>④ 現在は自治会に未加入だが、新年度に加入する予定である。運営推進会議には自治会の方も参加してもらっている。自治会活動に積極的に参加し、敬老会にも参加している。現在、近隣の方々との日常的な交流は少ないが、今後更にホームのPRを図り、行事の際などに呼びかけをして、交流が図れるよう検討している。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「やすらぎと喜びのある日々」を一人ひとりに伝えることができる介護の展開、認知症の方が地域の中で家族とのつながりを大切にし、今までの生活を一人ひとりが継続できるよう支援していくこと、を理念に掲げ、その実践に努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者及び職員は月1回の全体ミーティングで理念について確認しあい、理念の共有が図られている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏祭りや秋の芸術祭など、地域の行事に積極的に参加している。近隣の方々とはホームの行事に参加してもらうなど、交流が図られ、野菜をおすそ分けしてもらえるような関係ができています。自治会には年度切り替えの4月に加入できる方向で調整が進んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回が初めての外部評価の実施である。自己評価については全職員に配布の上、話し合い、意見交換をして最終的に管理者がまとめた。		

グループホームきぬの里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開設1年目であるが2ヶ月に1回開催し、内容が充実しており、課題解決のために委員の意見やアドバイスが良く出されており、ホームのサービス向上につながる討議が実施されている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	開設当初から市との連携が図られ、市主催の勉強会や研修に参加している。市担当者からもアドバイスを得て、サービス向上に活かしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回文書による「お知らせ（ホーム行事の案内）」を配布し、併せて金銭管理の報告を行っている。健康状態については必要に応じて、その都度電話等にて報告している。	○	毎月、家族にお知らせを個別送付していることを活かして、日常の出来事を紹介したり、写真なども取り入れてホームでの様子を伝えるなど、更なる充実を検討することにも期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情受付の窓口として、ホーム、市、国保連、運営適正化委員会の窓口を明記している。玄関に意見箱を設置している。職員は家族とのつながりを大切にしており、家族の訪問の際には必ず声をかけ、家族との意見交換を行い、職員間の情報共有を図っている。現在、家族会の組織化を検討中である。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来、異動はない。離職者は2名いたが、入居者及び家族に事前に説明して入居者のダメージを最小限に抑える努力をしている。		

グループホームきぬの里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	開設1年目であり、他ホームを見学したり、参加対象となる外部研修には積極的に参加するなどしている。また、内部研修として、月1回のミーティング時に勉強会を実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内で初めてのグループホームであり、同業者との交流は少ないが、開設間もないため、県内の同業者との相互訪問等により交流を図り、サービス向上に努めている。また、全国及び県の事業者組織に加入しており、研修会参加の際に意見交換をし、交流を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員が家庭を訪問して本人及び家族に面談し、本人及び家族にホームを見学してもらい、分かりやすく説明し、本人が安心し、納得して入居できるように本人の意思を尊重しながら対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	掃除や食事づくり、後片付け等、入居者のできることを考慮しながら職員と一緒にしている。食事づくりの場面では、入居者が味付けや食事の用意を手伝う姿が見受けられた。		

グループホームきぬの里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活における関わりの中で、声かけや話をしながら入居者一人ひとりが求めていることを把握している。希望等の意向の表出が困難な場合には家族の協力を得て意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の訪問時を利用し、本人・家族と相談して、意見や要望を踏まえて介護計画を作成し、説明の上、同意を得ている。また、申し送り時の職員の気づきや提案を介護計画に反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1ヶ月ごとにモニタリングを実施している。変化があればカンファレンスを実施し、検討を加え、適宜見直しを行い、家族の同意を得ている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望により、外出等の送迎等についてその時々にあわせて対応するなど、柔軟な支援に努めている。		

グループホームきぬの里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族が希望するかかりつけ医での受診を支援している。容態の変化時の対応については、協力医療機関で対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族の希望があれば対応する必要性を感じており、利用契約時に話し合いを行っている。事業所内で重度化した場合や終末期のあり方について管理者、職員で話し合いを行い検討している。	○	職員の話し合いを重ね、医療機関等との連携を図り、ホームとしてできる最大の支援方法を踏まえて方針・指針等を作成し、本人、家族、関係者と繰り返し話し合っていくことに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者一人ひとりのプライバシーを尊重して日々の声かけや対応について職員間で共有を図り、対応している。記録等の個人情報の取り扱いについては個人情報保護方針を作成し対応している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、日課は特に決めていない。入居者の希望により生活できるように配慮している。訪問時にも居室で過ごしたり、リビングのソファで職員と談笑するなど、入居者一人ひとりが思い思いに過ごされていた。		

グループホームきぬの里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みに配慮しながら管理栄養士（ケアマネジャー兼務）が献立を作成し、調理している。訪問調査時にも入居者が味付け等をして、一緒に調理をしていた。職員も入居者と同じものを食べていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に入浴は午後であるが、入居者の好きな時間帯に入浴できるよう対応し、入浴の支援をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	プランターの花の水やりやリビングの掃除、食事の後片付け等、それぞれ役割があり、また、入居者に絵の得意な方がおり、下絵を描き、入居者みんなで貼り絵をして楽しんでいる。出来上がった貼り絵はホーム内に飾っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日のように散歩に出掛けている。月2回の車での外出の際には、入居者の希望により外食を取り入れたりしながら支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の自動ドアは夜間だけ鍵をかけている。入居者の中には自分の居室に鍵をかける方もいるが、行動などを把握し、見守りながら支援している。		

グループホームきぬの里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災関係のマニュアルがあるが、避難訓練等は実施していない。	○	消防署や消防団の協力を得ながら定期的な避難訓練を実施していくことを期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士である職員が献立を立て、栄養のバランス等に注意しながら支援している。水分摂取についてはチェック表を用いて十分に摂取できるよう配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木造平屋造りで、リビングには観葉植物や季節の花々を置き、入居者の作成した貼り絵が飾られている。また、設備や調度品はいずれも家庭的なものをを用いている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、テレビ、仏壇、家族の写真など入居者の馴染みのものが持込まれている。それぞれの好みに合わせた居室づくりを入居者と相談しながら支援している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。